

春木 彩香

HARUKI Ayaka



不完全な私の居場所、私は今どこに在る

綿布着彩

不完全な私の居場所、私は今どこに在る

命というものは寿命があり永遠ではない。人々や自然はいつか朽ち果てる時が来るだろう。限られた時の中、ただ無に向かってるのは惜しいと私は考える。この、ただ過ぎていく日々の中で、いつか迎える死について考えるのではなく、生死を考えなくてもいいように不完全で不安定な今をどのように生きるのかを考えている。

《不完全な私の居場所、私は今どこに在る》では、「循環」と「縁(円)」という言葉を意識して制作した。この作品の中に、今もなお人間にとって未知の領域のある山と海を取り入れた。私は、それらをすべて知ることなく、今を生きている。すべて知ることができないのは、私自身の意識も同様である。また、人の心も結局は相手にすべて伝えることはできない。不完全ながらも自分自身迷いながら進むしかない。

そのような状況を表現するために太極図を用いた。太極図というのは、森羅万象、すなわち万物が表裏一体であることを意味しており、「陰」と「陽」の二つの気から成る。「陰」と「陽」の中に「陰中陽」、「陽中陰」があることによって、万物に完全なものはないことを表している。先の二つの気が交わることで万物は化成していく。「陰」と「陽」は「死」と「生」、「静」と「動」でもあり、人間の感情も「明るさ」があるからこそ「暗さ」を知ることができる。私は、このように相反する二つのものが調和することで世界の秩序は保たれると考えている。

しかしながら、私は大きな循環の中、抗うことができず、変化し進みゆく、今生きている世界が憎いし厭わしい気持ちになる。その今を生きていくために、この不完全である状態も全部私であると受け入れようと思う。変えられない過去に執着しすぎず、生きている今を見て、少しずつ迷いながらも逃げずに自分の居場所を探していきたい。